



校長室だより

校長 山崎 聡子

児童集会

1月30日(火)に各教室にて急遽児童集会を開きました。児童集会の目的は、大谷翔平選手から届いたグローブの紹介をすることです。事前に児童会児童がグローブを紹介する様子をビデオで撮影を行い、それを各教室にてテレビで視聴しました。

大谷翔平選手から届いたグローブは、右利き用、左利き用、小さめのものの3つです。グローブと共に、お手紙も届き、それを児童会児童が読み上げました。内容は次のとおりです。

.....

学校関係各位

貴校ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムを紹介するためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。

それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私から個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えて

いただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。

貴校のますますの発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平

.....

私からの話として、大谷選手が投げる球の速さを時速160kmにすることを目指して努力されたという高校時代の話、二刀流に突き進む際に周囲からの様々な声があったにもかかわらず挑戦されたという話をしました。その根底に、高校時代の監督であった佐々木洋氏の言葉『先入観は可能を不可能にする』(AERA:2023年7月24日号)があるということを伝えました。言葉を変えていえば「何かを始める時にそんなことできるわけがない。無理だと決めつけてしまうと、そこで終わってしまう。できないとか、無理とか思わないでまずやってみることが大切なことだ」という意味であることを話しました。

そして、今年立てた目標が達成できるという思いをもって進んでいってほしいこと。毎日の生活の中で、最初からあきらめてしまうのではなく、まずはやってみようという思いを大切にしていってほしいことを全校に伝え、児童集会を終えました。

グローブは、各教室に順番に回していま



す。活用の仕方については今後検討していく予定です。